

今号の主な内容

2面 開園します！ 谷戸せせらぎ公園



4月21日に開園する谷戸せせらぎ公園(谷戸町一丁目22番)についてお知らせします。

2面 花いっぱい運動に参加しませんか



花いっぱい運動に参加する花壇づくりボランティアグループと花づくり指導者を募集します。

3面 4月1日からの市役所窓口について



4月1日からの市役所の窓口業務をご案内します。

5面 胃がん検診の申込受付が始まります



平成13年度春の胃がん検診の申込方法についてお知らせします。

保谷市長が所信を表明

3月9日の市議会第1回定例会において、保谷高範市長が所信を表明しましたので、その概要をお知らせします。



本日ここに、市長就任後初の西東京市議会本会議において、これからの市政運営について所信の一端を申し述べる機会をいただきましたことを感謝申し上げます。私は、市民の厳肅なる信託を受け、初代西東京市長として市政を担当することとなりました。今後、編成に着手する平成13年度予算において具体化してまいります。今後の市政運営にあたる私の基本的な考え方について、その一端を述べさせていただきます。

私は、これまであらゆる面で行われてきた国や都道府県による関与が廃止・縮小され、国と自治体、さらに都道府県と市町村がこれまでの上下関係から対等・協力関係へと変化したことを評価したいと思います。明治以来連続として続いてきた中央集権下における、制度規制に縛られた画一的な地方自治の時代が幕を閉じ、21世紀は自治が定着し、個人の自立と責任の原則を前提としつつ、地域住民や地元企業、さらにNPOとの連携のもとに、地域住民自らがニーズにあったサービスを選択、あるいは創出し、個性的で魅力あるまちづくりを展開していく世紀になると思っております。

私は、市民参加、市民とともに作る地域の政治、市民政治を進めてまいりたいと考えております。地域住民の自己決定、自己責任によるまちづくりをその基本に据え、政策形成過程からの市民参加を推進し、行政と市民、市民相互の意見交換を活性化すべく、市民参加を促すための情報の提供と行政の説明責任の仕組みづくりに取り組みたいと考えているところであります。

現在の地方自治制度は、まだまだ多くの制度規制が残されており、小・廃止されるにつれ、それぞれの自治体で個性的な取り組みによる、独自のまちづくりが盛んに行われるようになり、いわゆる、地方分権社会における都市間競争が、これまで以上に激化するはずであります。特に、東京都区に隣接する我が西東京市周辺地域には、極めて完成度の高い自治体林立しており、熾烈な都市間競争が予想されます。旧田無市・保谷市はこうした時代認識に基づき、いち早く行政基盤を確立し、市民サービスの向上を図るべく、究極の行革といわれる合併を選択したわけであり、地方財政は、パブル崩壊後の長引く経済不況のありを受け、財政状況は年々厳しさを増しております。合併推進協議会で検証いたしました合併効果ができる限り早期に実現すること、私に課せられた使命であると認識し、平成13年度の早い時期に行革委員会を設置して、市民が望むサービスの種類や、サービス水準の向上を目指した具体的な検討を進めたいと思っております。

さらに、次代を担う子どもたちを思うとき、次のような点に思い至るわけであり、一つは環境問題であります。20世紀は物質的な豊かさを求めた時代でありました。その結果、我々人類は、大量生産、大量消費、大量廃棄による資源の枯渇と環境汚染、地球温暖化という地球規模の深刻な問題を引き起こしました。21世紀は環境の世紀であると思えます。環境問題は、国の問題だ、東京都の問題だと手を拱(たもと)いでいることはできません。私は、小さな地域ではあっても、自治体レベルから、そして住民の一人ひとりのレベルから環境を意識し、積極的に環境保全に努める必要があると思っております。大量消費の時代は終わりました。今後はこれまでに以上に、緑の保全と、省資源、省エネルギーを目指す循環型社会の構築、環境管理に積極的に取り組む必要があると考えております。そして、次代を担う子どもたちに良好な環境を引き継ぐことこそ、20世紀の物質的な豊かさを享受した我々の務めではないかと思っております。

二つ目は、子どもの育成に関する問題であります。先ほど20世紀は物質的な豊かさを求めた時代であったと申し上げました。特に、戦後は高度経済成長に支えられて急激に私たちの生活は豊かになりました。その反面で、精神的な価値よりも物質的な価値が優先され、大切なものを見失っていたのではないかと思います。昨今、児童虐待、学校におけるいじめ、学級崩壊、少年による凶悪犯罪という報道記事を目にするとき、将来に対する憂いを禁じ得ません。子どもは大人を映す鏡だと言われるように、生活の豊かさを追求してきた大人のひずみが子どもを通して現れているように思います。かつて、子どもはそれぞれの地域の中で大勢の友だちとの遊びを通してお互いを思いやる心が育ったのではないかと、また地域の大人からいけないことをしたときに叱られることによって子どもの中に社会規範が育まれたのではないかと、私には、都市化によって地域には遊び場がなくなってきた上に、少子化で子どもの数が少なくなっており、さらには子ども自身が学習塾や習い事で多忙を極めるといった生活を送っていて、地域社会とのふれあいが極めて少なくなっていることは事実だと思っています。地域と学校が力を合わせて、催し物をするのも大事なことであり、と思っています。